

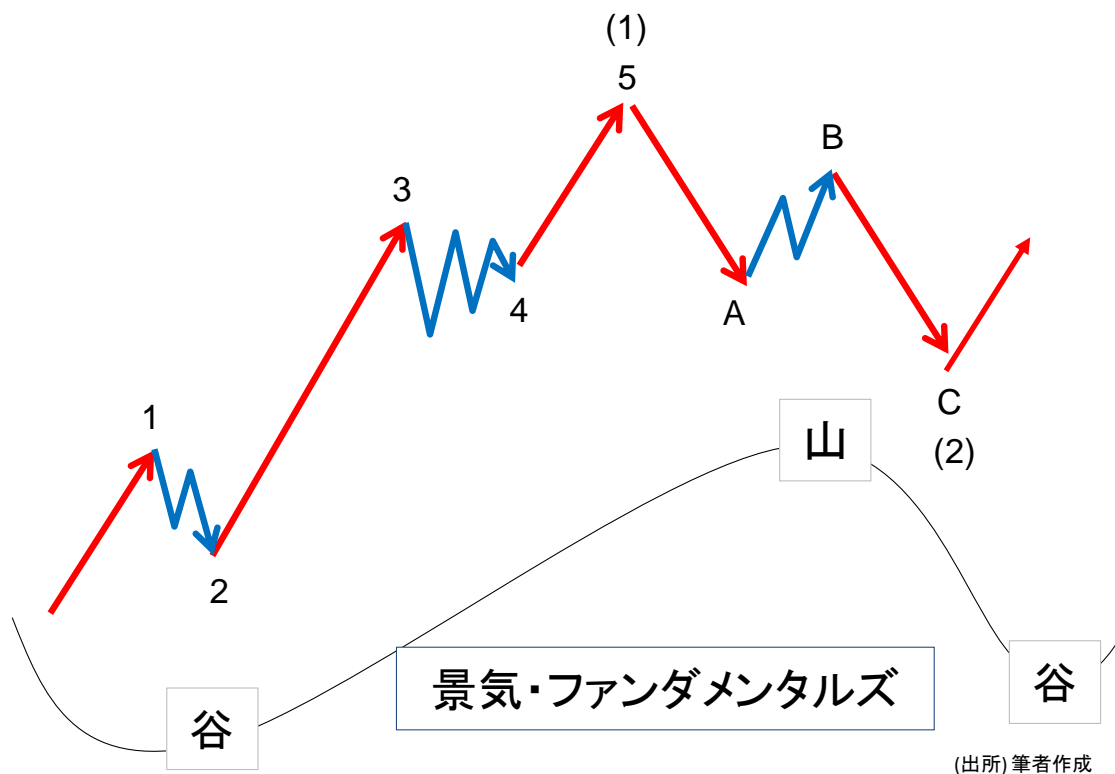
宮田直彦のエリオット波動レポート

マンスリー・フォーカス

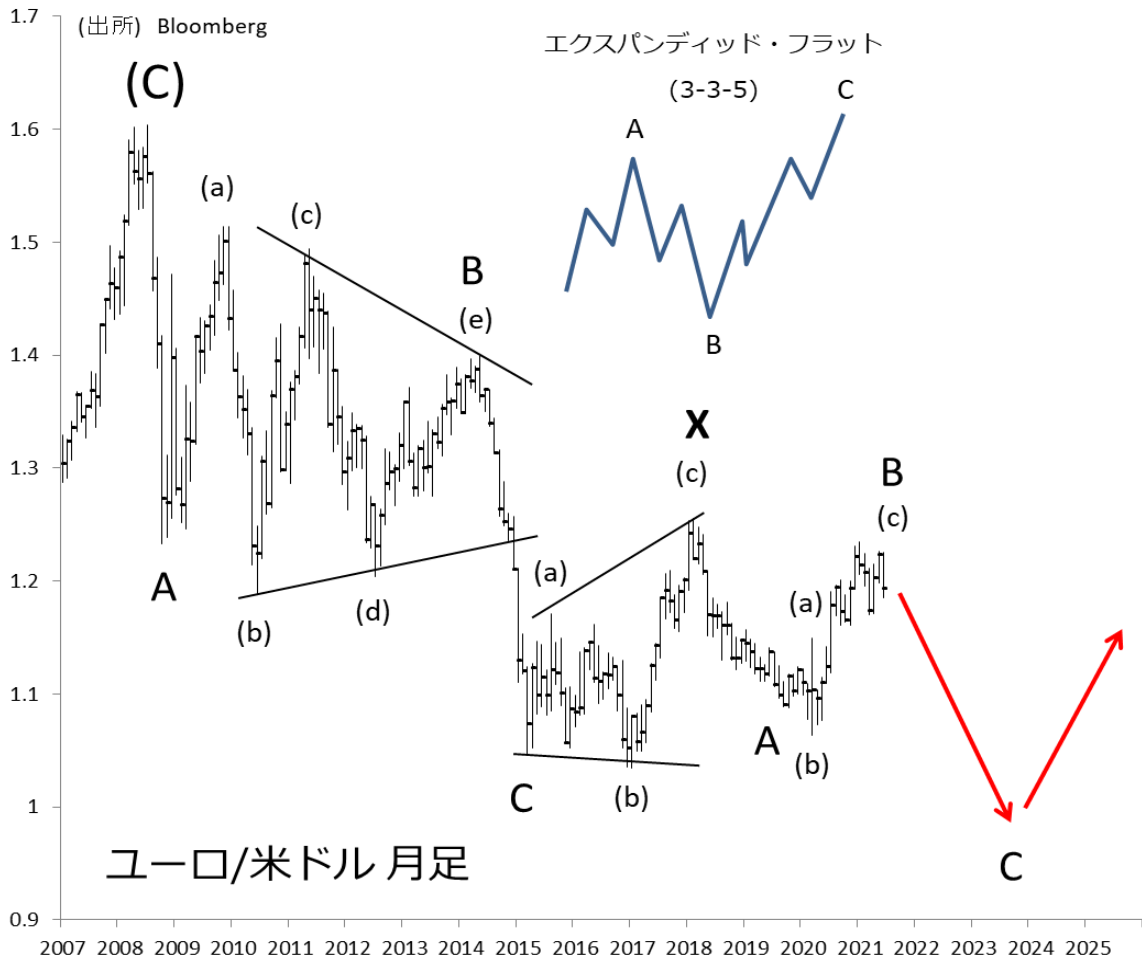
【ユーロ/米ドル】

エリオット波動によれば、ユーロ/米ドルは2008年高値から「ダブル・ジグザグ」で下げており、それはまだ進行中とみられます。おそらく今後2年程度はユーロ安が続き、パリティ(1ユーロ=1ドル)を下回る可能性があります。

2023年頃からは一転、ユーロ/米ドルは中長期タームのラリーをスタートすると思われれます。



ユーロ/米ドル



2008 年高値からのエリオット波動カウント

ユーロ導入(1999年1月)後、ユーロ/米ドルの最高値は2008年7月に付けた1.60370ドルです。そこを起点に、この通過ペアの長い弱気相場は始まりました。

エリオット波動に基づき、ユーロ/米ドルの長期波動をカウントしてみましょう。

まず2015年3月に付けた安値1.04570ドルまでは、A-B-C「ジグザグ」です(B波はシンメトリカル・トライアングル)。ひとつの調整パターンが完成したことにより、少なくとも2015年当時においては、ユーロ/米ドルが持続的な上昇トレンドに転換するチャンスがありました。

しかし実際は、2015年から上昇トレンドは起きていません。2015年から2018年までの3年間はX(エックス)波とラベリングされ、エリオット体系では「リバウンド」という位置づけとなります。

2015年3月安値1.04570ドルから2018年2月高値1.25530ドルまでは、「エクスパンディッド(拡大)・フラット」というパターンです。このパターンにおける最初の上昇波動=(a)波は3波構成、それに続く下落波動=(b)波も3波構成、そして(c)波は5波構成※です。

※上昇トレンドは5波構成というのが原則です。ただし、「フラット」を構成する上昇C波は5波構成ではあるものの上昇トレンド入りを意味しません。5波構成による上昇が確認されても、「新たな上昇トレンドが始まった」と即断せず、少し立ち止まってチャートを見ましょう。「鳥の目」で上空高くから俯瞰するように、パターンを吟味することが大切です。

今後 2 年程度はユーロ安を想定、パリティ割れも

上記のように 2018 年高値を以てリバウンドは終わり、そこからは 2 番目の A-B-C「ジグザグ」による下落局面が進行中とカウントできます。2008 年からのパターンは「ダブル・ジグザグ」です。

これによると現在の波動位置は、B 波のリバウンドが終了して C 波の下落が始まったか、始まりつつあるところ。言い換えると強気から弱気への端境にあるとみられます。

C 波(5 波構成)の下落(ユーロ安・米ドル高)は今後おそらく、2 年程度は続くでしょう。その過程でユーロ/米ドルは、パリティ(1 ユーロ=1 ドル)を下回る可能性があります。

2023 年頃からは一転、ユーロ/米ドルは中長期のラリー開始?

さらに先の見通しも示しておきましょう。2008 年からのダブル・ジグザグを 2023 年頃に終わると、その後は一転して、ユーロ/米ドルは中長期タームのラリーをスタートすると思われます。

そのラリーが、(2015~2018 年のような)リバウンド局面(=X 波)にとどまる可能性はありますが、それでも 3~5 年間はユーロ高・米ドル安が続くと想定されます。

ドルインデックスとの関係

ところでユーロの今後を予想する上で、ドルインデックスの動向は非常に参考になります。

ユーロとドルインデックスの相関係数を 2020 年から取ると、それはマイナス 0.966 となっています。

このように、両者は互いに鏡合わせの位置関係(強い負の相関)にあります。ユーロ下落の兆候があれば、ドルインデックスには上昇の兆候が出ているはずです。

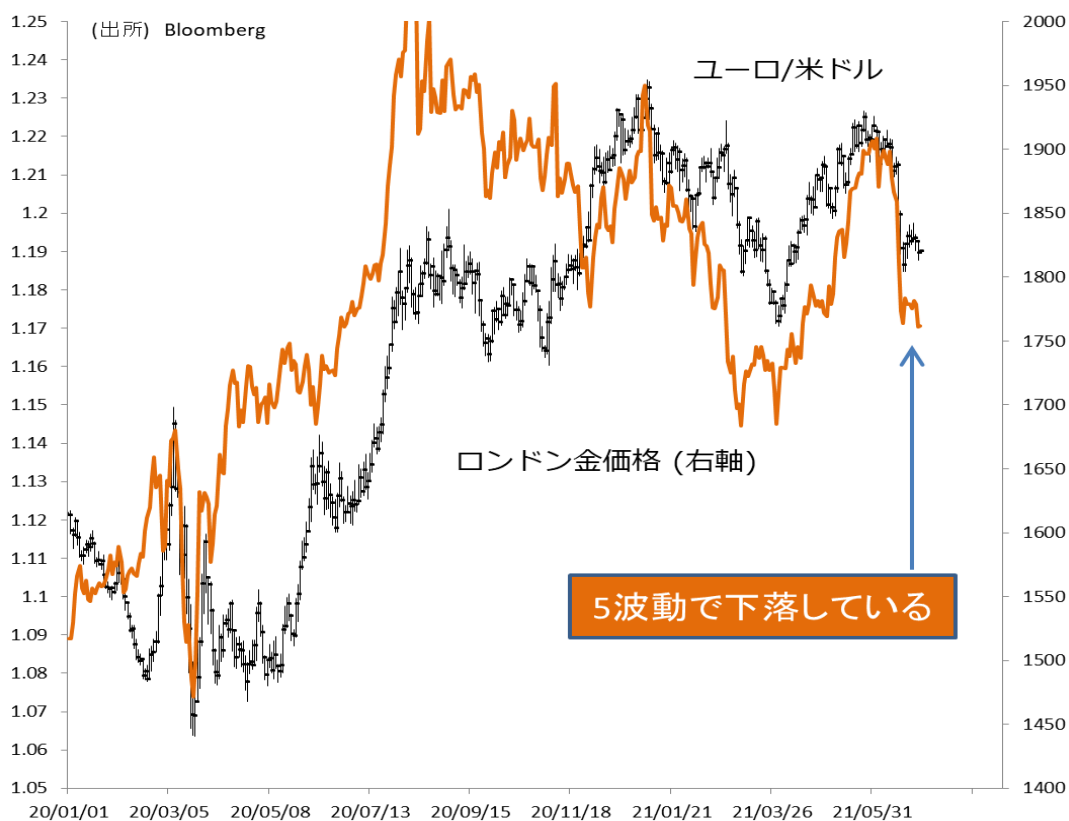
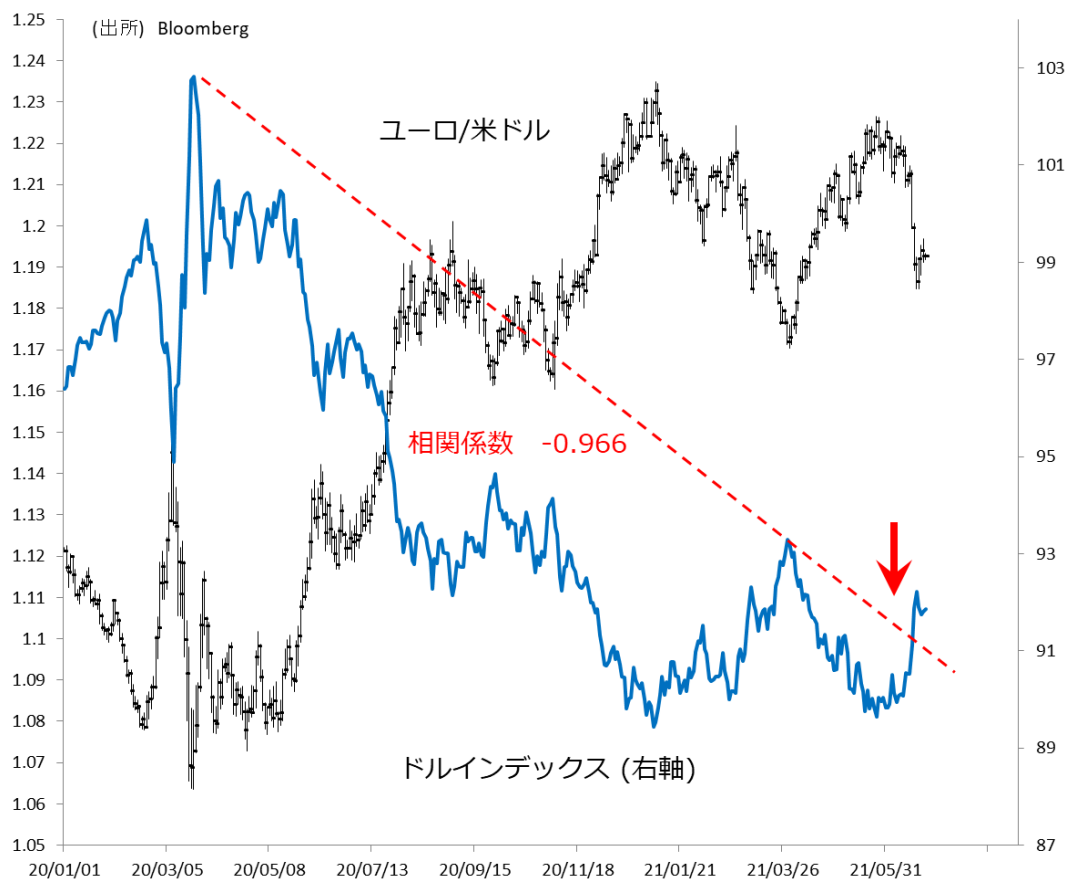
直近のドルインデックスをみると、2020 年 3 月高値からのレジスタンスラインから、上放れる動きとなっています。ユーロドルとは正反対に、ドルインデックスは 2020 年からの下落トレンドが続いてきましたが、それも終わった可能性があります。

金価格との関係

一般に金価格と米ドル(ドルインデックス)の間には、負の相関があることが知られています。先に書いたように、ユーロとドルインデックスの間には強い負の相関があります。よって、金とユーロの間には正の相関がある、といえます。

金価格は今年 3 月に付けた安値から上昇基調が続いていましたが、一転して今月は急落しています。しかも、5 波動構成で下げています。このことは、金価格が新たな下落トレンドに入ったことを示唆しています。そしてユーロも、今後はさらに下落基調を強める可能性があるといえましょう。

2021 年後半は、ユーロ/米ドルの一段安リスクに目配りが必要かもしれません。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウ リセット付証拠金取引のみ 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
